

I 第24週の発生動向 (2008/6/9~2008/6/15)

1. 咽頭結膜熱については、東地方+青森市保健所管内において2007年第45週から、むつ保健所管内では、2007年第48週から**警報**が続いています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、東地方+青森市保健所管内において第8週から、**警報**が続いています。
3. ヘルパンギーナについては、上十三保健所管内において、新たに**警報**が出されました。

II 第24週五類感染症定点把握 注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患番号・疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)		定点数						
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(85) インフルエンザ									8	0.89			8	0.12	-26											
(74) RSウイルス感染症									1	0.17			1	0.02	-1											
(75) 咽頭結膜熱	10	1.11	8	0.89	1	0.11	1	0.20	9	1.50	5	1.25	34	0.81	7	1	1.00	9	1.13							
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	31	3.44	26	2.89	6	0.67	4	0.80	10	1.67	2	0.50	79	1.88	13	5	5.00	26	3.25							
(77) 感染性胃腸炎	40	4.44	9	1.00	15	1.67	9	1.80	12	2.00	39	9.75	124	2.95	-44	5	5.00	35	4.38							
(78) 水痘	19	2.11	27	3.00	26	2.89	9	1.80	8	1.33	3	0.75	92	2.19	19	1	1.00	18	2.25							
(79) 手足口病			1	0.11									1	0.02	1											
(80) 伝染性紅斑					3	0.33							3	0.07	-4											
(81) 突発性発しん	5	0.56	5	0.56	5	0.56	1	0.20	3	0.50	5	1.25	24	0.57	1				5	0.63						
(82) 百日咳			1	0.11									1	0.02	-1											
(72) 風しん	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0										
(83) ヘルパンギーナ	14	1.56					1	0.20	49	8.17	2	0.50	66	1.57	26			14	1.75							
(73) 麻疹	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0										
(84) 流行性耳下腺炎	2	0.22					1	0.20					3	0.07	-4			2	0.25							
(86) 急性出血性結膜炎															0											
(87) 流行性角結膜炎	2	1.00	3	1.00	2	1.00	5	5.00					12	1.09	4			2	1.00							
(95) マイコプラズマ肺炎					5	5.00							5	0.83	-3											

は警報
 は注意報
 「空欄」：患者発生数0

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
東地方	2	1	1	0	0
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
青森市	12	8	4	2	1
合計	65	42	23	11	6

III 表II以外の感染症法対象疾患 (注：届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患)：弘前3人、八戸2人、五所川原1人、上十三1人、青森市4人 (20年計:231人)
- (55) レジオネラ症(四類全数把握疾患)：上十三1人 (20年計: 2人)
- (73) 麻疹(五類全数把握疾患)：弘前5人、上十三1人、青森市1人 (20年計: 59人)

感染症の窓

(人/定点)

● 現在
— 平年

※ 平年：過去10年間の週別平均です。

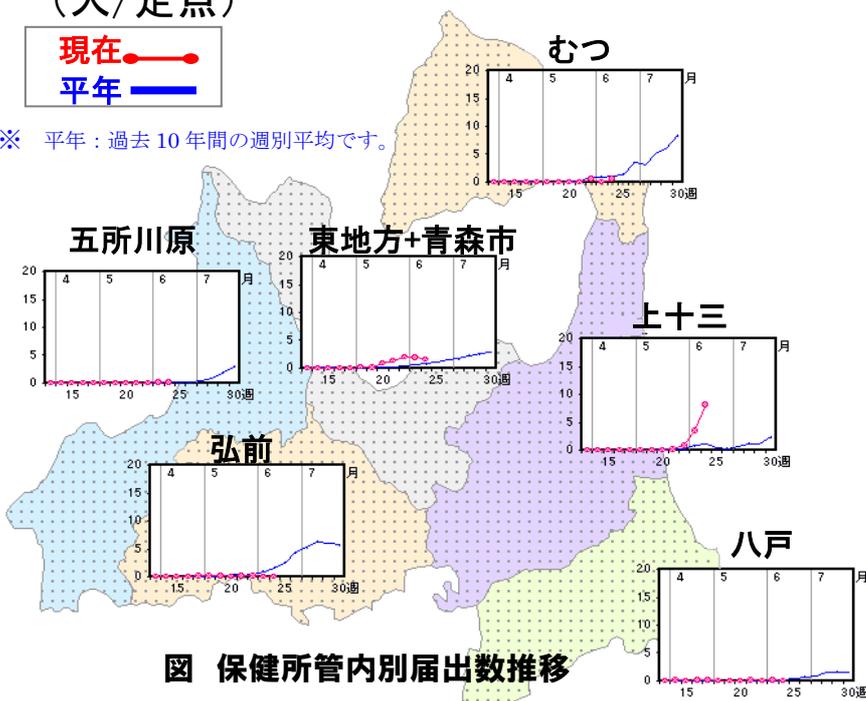


図 保健所管内別届出数推移

ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、夏季に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎で、夏かぜの代表的疾患の一つです。現在、上十三保健所管内において、増加傾向にあります(左図)。症状は、高熱(38~40℃)が1~3日間続き、その後、口の中に水疱ができ、咽頭痛が起こります。水疱が破れると潰瘍が形成され、食事をするとときに痛みを伴うため、食欲不振、全身倦怠となることもあります。ウイルスの排泄は、急性期は咽頭からが多く、回復期には糞便からの排泄が多いため、予防法としてうがいや手洗いを励行することが大切です。